

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
帝王賞	2017/6/28	JpnI	大井	2000m	スローペース	重	総合力、展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	メジャーアスリート	牡8	57	高橋哲	ダイワメジャー	サンデー系	Storm Cat	ノーザン系	D	D	D	D	D	D		
	2	アウォーディー	牡7	57	武豊	Jungle Pocket	ナスルーラ系	Sunday Silence	サンデー系	A	A	A	B	A	B	○	
2	3	ケイティブレイブ	牡4	57	福永	アドマイヤマックス	サンデー系	サクラローレル	ナスルーラ系	B	A	A	A	A	A	◎	
	4	ミッキーヘネシー	牡8	57	瀧川	ハーツクライ	サンデー系	Hennessy	ノーザン系	D	B	D	D	D	D		
3	5	グレイスフルデイズ	セ7	57	宮川	チチカステナンゴ	ナスルーラ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	D	D	D	D	D		
	6	アポロケンタッキー	牡5	57	内田	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	A	A	A	B	A	B	△2	
4	7	オールブラッシュ	牡5	57	ルメール	ウォーエンブレム	ミスプロ系	Crafty Prospector	ミスプロ系	B	A	B	B	B	C	×1	
	8	ウマノジョー	牡4	57	山本聡	ウイングアロー	ノーザン系	フォーティナイナー	ミスプロ系	D	A	C	C	C	C		
5	9	メイショウソレイユ	牡7	57	保園	メイショウボーラー	ヘイロー系	Kris S.	ロベルト系	D	C	D	D	D	D		
	10	クリソライト	牡7	57	戸崎	ゴールドアリュール	サンデー系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	B	A	B	B	B	A	△1	
6	11	ゴールドドリーム	牡4	57	Mデムーロ	ゴールドアリュール	サンデー系	フレンチデピュティ	ノーザン系	A	A	C	C	B	C	△3	
	12	タマモネイヴィー	牡6	57	繁田	ネオユニヴァース	サンデー系	カコイシース	アリダー系	D	B	C	C	C	C		
7	13	サンドブラチナ	牡4	57	矢野	カジノドライヴ	ナスルーラ系	ステイゴールド	サンデー系	D	B	D	D	D	D		
	14	ヴァーゲンザイル	セ9	57	秋元	ネオユニヴァース	サンデー系	ノーザンテースト	ノーザン系	D	C	D	D	D	D		
8	15	サウンドトゥルー	セ7	57	大野	フレンチデピュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	A	B	A	B	A	B	▲	
	16	プレティオラス	牡8	57	赤岡	フィガロ	ノーザン系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	A	D	D	D	D		

隊列図	見解	ラップタイム
ケイテ オール アウォ クリソ アポロ ゴール ウマノ サウン タマモ プレテ ミッキ グレイ サンド メジャ ヴァー メイシ スローペース	<p>芝路線ではキタサンブラック、サトノダイヤモンドという2トップがいるものの、ダート路線は長らく主役馬不在の状態が続いている。それは最近のダートG1 (JpnI) レースの結果を振り返っても明らかで、昨秋のJBCクラシック以降は勝ち馬がコロコロと入れ替わっている。G1初制覇で新星が誕生したかと思えば、また新たな新星が誕生しており、現在のダート路線はまさに群雄割拠の時代といえるだろう。今年の帝王賞に出走している7頭のうち3頭は海外遠征帰り。ただでさえ難解なダート中距離路線なので、ここは一筋縄ではいかないはず。それでは予想にいきましょう。</p> <p>自信の本命はケイティブレイブ。まず評価したいのは前走平安ステークスのレース内容。前半1000m通過が推定で59.2秒という超ハイペースを前々で追走し、残り1000mではすでに先頭に立つ場面。同じように前々で立ち回ったクリノスターオー (14着)、ドリームキラリ (15着)、コパノチャーリー (16着) が3コーナーで大失速する中、本馬は馬なりのまま3~4コーナーをターン。直線はさすがにバテたが、あの展開で5着に粘り込んだのだから並みの馬ではないだろう。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	メジャーアスリート		距離が長い上に圧倒的に力が足りない。		
	2	アウォーディー	○	JBCクラシック以来、勝ち星から遠ざかっているものの、チャンピオンズカップは勝ちに行つての2着、東京大賞典は不得意な上り勝負で2着、ドバイワールドカップは5着とはいえ日本勢で最着。絶対王者とはいえませんが、現在のダート中距離路線ではやや抜けた存在と見ていい。		
2	3	ケイティブレイブ	◎	前走平安ステークスが負けて強しの内容。現状のダート中距離路線の流れを考えると、アウォーディーら一級線相手でもいきなり通用しても不思議ではないだろう。メンバーを見渡す限り、単騎逃げが濃厚。「能力的に足りる」のはもちろん、展開面の後押しもある。		
	4	ミッキーヘネシー		南関東重賞くらいならチャンスがあっても良さそうだが、JRA勢相手ではさすがに分が悪い。距離もマイルがベスト。		
3	5	グレイスフルデイズ		高知の重賞でも勝ち負けは難しそう。ここは参加するだけだろう。		
	6	アポロケンタッキー	△2	昨年の東京大賞典で本命に推したように能力を高く評価しているが、今回は力を発揮できるかが不安。やや内目の枠を引き、外にオールブラッシュがいる並び。本馬のスタートの遅さを考えると、1コーナーまでに包まれそうで、早め早めに動いてこそ本馬にとっては厳しい展開になるのではないかと。		
4	7	オールブラッシュ	×1	川崎記念は確かに完勝だったが、展開に恵まれた上、実力馬が勝手に自滅した印象が強い。実際、名古屋大賞典はコース適性がなかったとはいえ、カツゲキキトキト、モルトベアーネに先着を許しての5着。大井2000mのガチンコ勝負では分が悪いのではないかと。		
	8	ウマノジョー		地力強化が著しいものの、ダイオライト記念ではクリソライトに完敗。まだまだこれからの馬だが、現状でJRAの一級線相手ではさすがに厳しい。掲示板に入れば、御の字だろう。		
5	9	メイショウソレイユ		地元・笠松ならまだまだ走れそうだが、ダートグレードそれもJpnIではさすがに分が悪い。		
	10	クリソライト	△1	クリソライト自身を買いたいというよりもほかの馬に不安があるので相対的に評価を上げた。近走のレース内容を見ても、衰えはそこまで感じられず、能力をフルに発揮できれば、上位争いしても不思議ではなさそう。鞍上の戸崎騎手とも手が合いそう。		
6	11	ゴールドドリーム	△3	重賞はコーナー2回のコースが【2.1.0.0】(すべて東京ダート1600m)に対し、コーナー4回のコースが【0.1.1.2】。ワンター専門とまでは言わないが、コーナー4回のコースでは明らかにパフォーマンスが落ちている。この舞台で積極的に買う気にはなれない。		
	12	タマモネイヴィー		近2走は大井外回りで鮮やかな決め手を発揮しているが、ダートグレードではさすがに厳しい。目指すは地方勢の最着だろう。		
7	13	サンドブラチナ		B2で結果が出ていない現状。参加するだけだろう。		
	14	ヴァーゲンザイル		中6日でもいかに富田厩舎らしい使われ方。出走手当当てでの出走だろう。		
8	15	サウンドトゥルー	▲	中距離では展開に関係なく突っ込んでくる馬。事実、本格化した2015年秋以降、1800m以上のダートグレードでは【3.3.5.0】と一度も3着以内を外していない。勝ち切るイメージはあまり湧かないものの、これだけ安定した成績を残しているのだから相手本線に考えたい。		
	16	プレティオラス		同舞台を得意としているが、1年以上の長期休養明け。ここは無事に回ってくるのがすべてか。		